

保護されたニホンカモシカの安楽死について

昨年より動物病院に入院し、治療を行ってきた野生のニホンカモシカにつきまして、2025年5月14日に安楽死の処置を実施いたしました。これまで多くの方から応援や医療費のご支援もいただきながら治療を続けてきましたが、最終的に安楽死を選択することになった経緯について、ご報告させていただきます。

ニホンカモシカは2024年4月1日に保護されました。8、9才程度のオスのニホンカモシカで、交通事故が原因と思われる骨折で起立できませんでした。重症だった右後肢の患部は開放して骨が粉砕し、右前肢の亀裂骨折もありました。野生動物の処置には危険がともない、手術後の管理も困難なことが多いのですが、このニホンカモシカに関しては数日で入院環境に慣れ始め、威嚇はするものの触ることができるようになりました。このような状況も後押しし、4月11日に骨折治療による起立を期待して骨折の整復手術を行ったところです。

しかし、術後の回復が思わしくなく、原因として骨髓腔内の細菌感染が考えられ傷が塞がらず骨も癒合しない状況が続きました。

思うような治療効果が得られない中で、体調に合わせて点滴や鎮痛剤、胃腸薬、下痢止めなどを投与しながら全身状態の維持に努め、体の汚れを洗い流したり褥瘡ケアやリハビリを毎日継続したりして、生活の質を保つようにしました。また、野の木々や草花も与えるようにして、選択して食べられる環境を心がけました。それに答えてくれるように食欲は安定し、毎日の処置を警戒しながらも受け入れ、落ち着いて過ごしているように感じられました。

その後の治療は良化悪化を繰り返し、徐々に骨折肢以外への感染の波及や四肢の変形、慢性感染による貧血など、全身への影響がみられるようになりました。また、毎月行っている血液検査の結果でも徐々に全身状態が悪化する傾向が見られました。

2025年3月、改めて今後の方針について獣医師と飼育職員で話し合いを行い、慢性感染の原因となった骨折肢の断脚手術を行うことにより感染が鎮静化し、先の治療につなげることを期待しましたが、しばらくして膿の排泄が再発し結果的に感染を抑えることはできませんでした。

このような状況の中、「細菌検査や感受性検査をもとにした治療を繰り返し行っても、感染は治まらずこの先も排膿が続くことが明らかであること」、「治療やリハビリを行っても四肢の変形は進行し回復する見込みがないこと」、「治療がさらなる痛みにつながること」、「現状では起立することが出来ず褥瘡などが予想できること」などを当園の判断基準に照らし現場の獣医師や飼育担当とも協議を重ね、園長など管理職と現場の幹部職員からなる園内会議の協議を行った結果、これらの苦痛からの解放のために安楽死を選択することになり、5月14日に可能な限り苦痛のない方法で実施いたしました。

これまで応援してくださった皆様には改めて感謝申し上げると共に、長期間にわたり治療に努めながらもこのような結果となりましたが、これまで1年以上続けた治療と判断を振り返り、これから診療に活かすよう努めて参ります。

【盛岡市動物公園 ZOOMO の安楽死の判断基準】

- ①治療を行っても回復が見込めない
- ②生活の質が低下したままである
- ③症状の進行により苦痛、痛みを伴う

これら3つの判断基準に従って園内で協議

【経過について】

2024年

4-5月 4月1日、盛岡市内で保護。血液検査とレントゲン実施。抗生素や止血剤の投与、点滴等の治療を開始し、骨折部の外固定などを行う。4月11日に左後肢骨折整復手術。その後抗生素や消炎鎮痛剤を投与しながら治療継続。リハビリを開始

6月 感染治療のためピンを抜く処置を行う。血液検査とレントゲン実施。細菌検査と感受性検査を行いながら、抗生素の全身・局所投与、傷の洗浄や軟膏塗布、外固定を継続

7-9月 治療・処置・リハビリ・ケアを継続。血液検査を実施、貧血・低アルブミンの治療。便状が不安定な状態が続く

10月 麻酔下で左後肢の不良組織などの除去、四肢の膿瘍の処置などを行う。集中して抗生素の静脈点滴を行う。右前肢へ装具を装着

11-12月 治療・処置・リハビリ・ケアを継続。感染が全体的に良化傾向となる。血液検査を実施、貧血が正常値まで良化する。

2025年

1月 獣医師と病院・飼育職員で話し合い、現状の評価を行う。今後の治療やQOLの向上について意見を出し合う。便状が不安定な状況が続く。血液検査とレントゲン実施

2月 感染が再度悪化傾向。麻酔下で左後肢の不良組織などの除去、四肢の膿瘍の処置などを行う。血液検査とレントゲン実施。再度貧血傾向

3月 治療・処置・リハビリ・ケアを継続。感染が悪化傾向。3月21日に左後肢の断脚手術を行う。血液検査とレントゲン実施

4月 治療・処置・リハビリ・ケアを継続。術部からの排膿が見られ徐々に悪化。血液検査とレントゲン実施

5月 園長、獣医師、病院飼育員で話し合い予後等について評価、飼育職員と共有。その後園内で安楽死について検討。5月14日に麻酔薬による安楽死処置の実施

※リハビリ・ケア…褥瘡予防、四肢の筋マッサージや関節屈伸運動、起立補助、体の清拭など

【解剖検査の結果について】

解剖検査の結果、心嚢水の貯留や肺の鬱血、臓器の褪色のほか（循環不全や貧血を示唆）、右上腕と左大腿部の皮下や筋間の膿疱、右肘部と左踵部の骨増生、左手根関節崩壊などが見られました。さらなる原因精査のため、血液培養検査と病理組織検査を実施しています。

盛岡市動物公園 ZOOMO